



機関紙

# 一水会

No.4  
『夏号』

発行日/2015年5月1日

発行人/小川 游

編集責任者/さきやあきら

発行/一水会事務局

〒330-0074

埼玉県さいたま市浦和区

北浦和5-3-3 B-108

山本耕造方

Tel.048(816)8805

<http://www.issuikai.org/>

題字/有島 生馬

## 巻頭言

機関紙「一水会」の活動に呼応して、各地域での組織の立ちあげ、出品者展開催の動きが、しきりに伝えられています。これは、まさに、会活性化への胎動と言える現象であり、歓迎すべき状況であると考えます。60年以上の歴史をもつ、関西支部の「研水会展」をはじめとし、「中部一水会展」「石川県一水会出品者展」等は別格の観ありとは言え、それらの地域でも、中央での「精鋭展」に準じた企画が実施され、新しい才能、人材の発掘と育成にのり出しているとのこと、その成果が大いに期待されるどころです。

また、今年には北海道、中

国地方、関東では千葉で、出品者展の発足、或は復活が実現されるとのことで、ご同慶の至り、心よりお祝い申し上げます。

そして、このような気運の中、機関紙の重要性とその活動内容への期待が一層高まっていることが、ひとしお強く思われることでもあります。

二〇一五年三月 小川 游



## いあい

事務局長 山本 耕造

一水会出品者による各地方の展覧会が活発に開催されて居りますが、新たに千葉県、広島県や北海道でも立ち上がるよう地方が活性化している様子です。その勢いを本展へ持ち込んでいただけるものと期待をしております。

### 第77回一水会展出品の注意

出品申込書・出品票は必ず77回展用に書いてください。

出品申込書と出品票はバーコードで処理するため、完全に連動していませんので、書き損じた場合は必ず事務局に再発行をしてもらうことが必要です。(初出品者の場合は新しい出品要項セットにて書き直す。)ご協力をお願いします。

### 公募団体ベストセレクション 美術2015

久保田辰男先生がギャラリートーク

五月四日の午後二時十分〜二時三十分頃の予定で久保田先生がギャラリートークをされますので

是非、会場に足を運んでご覧いただきますようお願いいたします。

今回の出品者は佐藤道雄先生、久保田辰男先生、山本勇先生、久保慶議先生です。

### 展覧会の報告

二〇一四年後期の展覧会

### 一水会展巡回展

三都市で開催された巡回展覧会。

### 「大阪展」 二〇一四年

十一月十一日〜十六日

入場者/九千八百一人

### 「名古屋展」 二〇一四年

十二月二日〜七日

入場者/六千六百九人

### 「金沢展」 二〇一四年

十二月十七日〜二十一日

入場者/七千八百九十七人

### 二〇一五年の展覧会

### 第54回 選 抜 展

二月二十五日〜三月三日

於/日本橋三越六階特選画廊(本紙二面に関連記事)

### 「盛岡展」

三月二十五日〜四月九日

於/深沢紅子野の花美術館

### 第12回一水会精鋭展

三月九日〜十五日

於/東京銀座画廊・美術館(本誌四〜六面に関連記事)

新たな展望

第54回

一水会選抜展



二月二十五日から三月三日まで日本橋三越本店美術特選画廊にて第54回一水会選抜展が開催されました。今年の出品者は運営委員と常任委員の三十三名と、委員・会員・会友・一般からの選抜者三十三名の計六十六名。十号程度六十六点と三号程度の作品三十七点で出品総数は一〇三点でした。

二十八日の午後二時からのギャラリートークは、鈴木益躬先生と玉虫良次先生が担当され、百五十人程のお客様が、作品の解説や作者の紹介に熱心に耳を傾けていました。会場に居合わせた出品者の方も作品への思いを語り、和やかな一時間となりました。

打ち上げは日本橋三越特別食堂で、三十五名の出席で交流を深めました。



深沢紅子野の花美術館  
一水会選抜展

盛岡の深沢紅子野の花美術館では、三月二十五日から四月九日まで、「一水会選抜展」巡回展が開かれ、特別展示の一水会優賞作品を含め、四十二点の作品と深沢紅子先生の作品が展示されました。

オープニングセレモニーでは一水会代表の小川游先生が挨拶され、紅子先生の思い出を語りました。ギャラリートークでは小川先生と常任委員の山本耕造先生が集まった五十名程のお客様の前に一時間に渡って作品の表現方法や画家の紹介をいたしました。盛岡に駆けつけた出品者もトークに参加して美術ファンの方々との会話も弾んだ交流の場となりました。(西記)



短 信

第1回 一水会北海道出品者展

一水会北海道出品者展

会期 2015年4月14日(火)～4月19日(日)  
午前10時～午後6時(最終日は5時まで)  
会場 CENTRAL 大丸副都心ビル 7階ギャラリー  
スカイホール 札幌市中央区南一条西3-12 電話(011)223-1131



(主な掲載作品は、2014年 第76回一水会展記録より)  
一水会・北海道出品者の新たな出発の展示会です。  
ご高覧頂けます様ご案内申し上げます。

一水会北海道出品者の会事務局  
〒070-0275 旭川市春光5条9号-12 佐藤道雄 電話: 0166-51-2559

今年、北海道で一水会出品者が決意を新たに再結集、いよいよ第1回展の産声をあげました！ 来年からは北見、釧路…と開催地を変えての実施です。本紙五号(冬号)で、その様子をご報告いたします。

第1回  
一水会人物デッサン講座 開講!  
二〇一五年三月二十一日・二十二日 会場/旧芝園中アトリエ

新企画が参加者二十一名(うち部外者六名)によりスタート。

講師陣には、小川游先生、寺井力三郎先生、山本耕造先生をお迎えし、

裸婦の固定ポーズを、初日午前午後と二日目の午前中、木炭紙に木炭を用いてデッサンしました。

画材の性質と扱い方、制作時の姿勢と心構え、物の見方についての解説の後、ポーズは始まり、木炭が紙面を擦る音と、張り詰めた息遣いの中で参加者は、先生方の実技に眼を凝らし、素描論に耳を澄ましながら、濃密な時を過ごしました。  
二日目の午後は講評会で、先生方は作者と対話



しながら一点ずつ懇切丁寧にアドバイスをされました。  
—以下、講評会から

●地面、物、背景、その三者関係を描き分けること。

●幅(面積)ばかりで見るとでなく、奥行き、丸さ、側面を見ること。  
●よく見て描けば下手にはならない。

●正面では足が揃って見えるが、横から見ると一歩踏み出している。多面的に考えること。  
●骨格と筋肉の付き方が合えば体型はため、細めになっても構わない。

●「福笑い」のように目鼻口を配るのでなく、特に顔は凹凸として見ること。  
●表情は顔だけでなく全身にある。

●明暗の調子は音楽と同じ。



じ、幅が広いと豊かな表現ができる。

●ハイライトはごく僅か、中間調子を見つけて集中すること。  
●描ける人は視点を一定させているため姿勢も



良い。

●頭頂、手足の指先など形の末端をきちんと決めて描くこと。

(新井記)

武甲山油彩画展

— 神体山を描いて57年…浅見嘉正 —

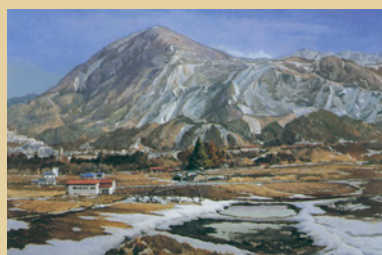
平成27年3月15日~24日 秩父神社平成殿2階 主催:秩父神社



浅見嘉正先生が、埼玉県秩父神社境内の平成殿二階ギャラリーで、個展を開催されました。

「秩父神社御鎮座式卅百年」を記念する同展の主催者で、秩父神社宮司の藺田稔氏は、図録巻頭の賛辞で、「秩父盆地南面に千メートルを超えて屏風のように屹立する山容には、神が住み給うと畏怖するの無理はない。浅見嘉正先生が画業を貫いて武甲山を描き続けて居られるのも牟べなるかなと拝察する。」と述べられ、セメント採掘によりその尊い山容を喪いつつある武甲山を、「それでも先生は怯むことなく、昭和三十年代から五十数年をかけて一途にその変容を画材に描き留めてきておられる。そのことが実に尊い。」と続けておられます。

校長室の壁が寂しいから絵を、との依頼を受けて昭和三十



第64回一水会展「岳麓早春」文部科学大臣奨励賞

十二年に第一作を描かれてから五十七年間、秩父盆地の要として鎮まる山なみの「晩秋から冬、早春にかけての色彩が特に好きです。」と浅見先生は微笑まれます。会場には武甲山の大作六点と油彩中品、油彩・水彩スケッチの他、小品ではインドの風物、裸婦、犬吠埼灯台、エドゥアル・ヴエイヤール作品の模写も陳列されました。(新井記)



# 「特集」

## 第12回

# 一水会精鋭展

昨秋の一水会会場場で運営委員により選出された七十五名(うち連続選出は五十二名)による50号一点ずつの展覧で、陳列指導は田中義昭、鈴木益躬、さきやあきらの三先生にご担当頂きました。初日夕刻のレセプションも和やかに進み、その賑わいは二次会三次会へと続いて、地域や上下を超えた横のつながりを結ぶ良い機会にもなりました。会期後半は好天にも恵まれて、来場者総数は約一四〇〇人。

係の五名(浅見、久保、栗原、相馬、滝沢)の手際良い采配で、滞りなく全過程を終了することができました。

## 展 評



鈴木益躬先生

年齢、画歴ともに様々ですが、明日の一水会を担う、気力充分な作品展でした。委員、会員、会友の作品が混在し、多様な自己表現の中にも余裕を感じさせる表現と、厳しい追及に少し堅くなっている作品とが見られました。ともあれ、秀作も多く、これだけの作家が次世代の力強い牽引役として活躍されることは頼もしいことです。人物では、**平井芳夫**「野に

光男は中央の人物を影のように描き、白昼夢の様な幻覚を想わせた。

**滝沢美恵子**「街角景」は老男性と若い女性の絵柄との対比がドラマチックな心的表現となっている。**木村毅**、**定番**の細身の少女と不幸な記憶の現場描写に胸が痛む。**森木和子**「大道芸人」構成力が力強く、色彩も美しい。

静物画は写実的描写力が秀でている作が多いが、**小沼秀夫**「黙示」は鳥と風向計が不穏な現代を暗示し、加えて背景の明るい表現が希望を感じさせる。**市川広美**「向日葵」は枯れ花のきびきびした描写に生命感が溢れる。

**杉田公子**の野菜の構成は自然の恩恵を大らかに歌い上げる。**弓手研平**の作品は極度に単純化された自然賛歌が力強い。**中村哲泰**は種を宿す枯れ花に「とどまることのない生命」を見る。風景は、**浅見文紀**「流」卓抜した描写力で厳冬の

て「女性の表情に対する枯野の不気味さが不透明な現代を思わせる。**芝教純**「待つ」とは、少女の内面性と背景の「にじみ」の効果が良い。**相馬順子**の人物は平面性と色彩の近代感覚の冴えが良く、**世良ツヤ子**「自画像」は上半身に光を集め、暗い背景に効果的で表情の厳しさが良い。対照的に単純化した筆法で若い娘の存在感を描ききついている**山本佳子**。「赤坂見附にて」の**加曾利**

美を描出しきついている。対する**保坂晶**は垢抜けした図柄が現代美を捉えている。**菊地洋二**、**栗原高光**、**森敬介**は余裕ある表現で自然美を表出していた。

まだまだ多くの秀作を掲出できず、紙面の都合ではあるが、作家の皆様にも申し訳なく思っております。



### この人に注目④ 茅野 吉孝さん

六年前に六十歳で定年退職された、千葉県野田市在住の茅野吉孝さん。充実した「絵描きライフ」をお聞きしました。

〈聞き手〉加曾利 光男

——絵はいつごろから？

そもそもはデザイナー志望で絵描きになる気はありませんでした。それでもワイエスとターナーがずっと好きで三十歳頃からまず水彩で描きはじめました。誰かに師事せず、当時から今までずっと独学で工夫を重ねています。

——油彩、水彩の二刀流はいつから？

描きはじめてから一時期、エッグ・テンペラを試みましたが、すぐ油彩に代わりました。それ以来ずっと油彩と水彩です。

——団体展へは？

一水会は48回展が初入選でした。いくつかの団体展をみたうえで決めたのですが知り合いがいるとか、誰かに誘われたとかではありません。一九八六年には昭和会展で優秀賞を頂き、それからは「画家」を意識し始めました。

——現在の活動は？

大宮(さいたま市)で月一回の教室を持っていて、別に新し



街角景 滝沢 美恵子



黙示(2015) 小沼 秀夫



アトリエの娘 山本佳子



自画像 世良 ツヤ子



春景 新井 隆



はるかな風景・石を積み 保坂 晶



屋下がりのサントロペ 森 敬介



ボンデン旗 栗原 高光



白飯と魚一尾 弓手 研平

インタビューの間、何度か「今は充実している!」と言われ、文字通り絵三昧の生活を楽しんでおられました。

くデパート関係の月一の教室が始まります。  
もう四年目になりますが、ヨーロッパへのスケッチ・ツアーの講師をしています。今年は南フランスの予定です。  
毎年十二月には大宮のギャラリー「エル・ポエタ」で個展があり、隔年で京橋のギャラリー「びくた」で個展があります。  
——日常生活は?  
大学卒業後に美術・工芸教育の高校で教職に就き、定年まで勤めました。  
今は朝7時に起きて、朝食後しばらく庭に出て、九時にはアトリエに入ります。昼食後と夕食後にも描いて、だいたい夜十時くらいまでアトリエに居ます。  
.....  
インタビューの間、何度か「今は充実している!」と言われ、文字通り絵三昧の生活を楽





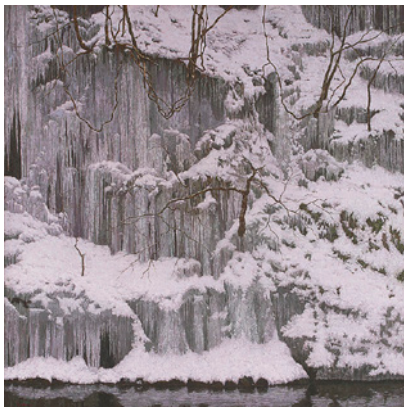
大道芸人一出を待つ 森木 和子



リベイロの五月 菊地 洋二



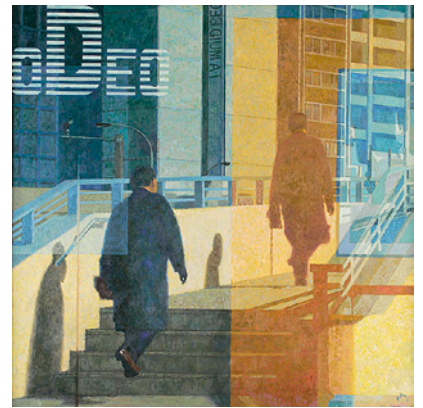
とどまることのない生命 中村 哲泰



流 浅見 文紀



爆風の記憶・忍び寄る不安 木村 毅



赤坂見附にて 加善利 光男



「待つ」こと 芝 教純



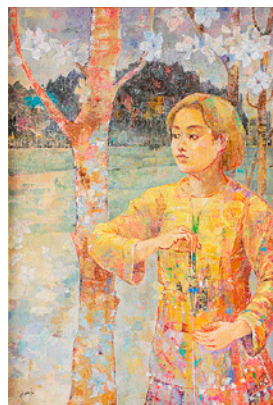
向日葵 市川 広美



野にて 平井 芳夫



冬の贈り物 杉田 公子



占いの森 相馬 順子



獺祭図 久保 博孝

# 今年60回記念展を迎える 中部一水会展

桜吹雪の中、昨年四月二十二日～二十七日の六日間、愛知県美術館ギャラリーで、第59回中部一水会展が開催されました。昭和三十三年に十五人のグループ展から始まったこの会ですが、現在では愛知・岐阜・三重・静岡の四県にまたがり、在籍一七三人となりました。十二年前からは公募形式になっています。



ワークショップ

半年前から準備したことで、五十号～一〇〇号の多くの応募があり、審査の結果一四六点が展示されることとなりました。そのうち七点が初入選作品というのは、大変うれしい事の一つです。

では受賞者や初入選者が壇上に上がりました。先生方との会話も弾み、和気あいあいとした時間を過ごしました。会期中はギャラリートークも行われ、約六千人の来場者で大いに盛り上がりました。これは数年前に比べて約五百人増になっています。



田島健次先生のコラージュ

多くの方々に『**アートの本質は楽しくてワクワクするものだ!**』ということを知っていただき、気楽に展覧会に足を運んでいただけよう、三年前からワークショップも開いています。

会場内にコーナーをつくり、「ぬり絵」、「フロッタージュ」、「コラーージュ」と、毎年テーマを変えて来場者と交流し、楽しい時間を過ごしました。簡単な手作業でもアートが体験できる事や、気楽に作家と会話できるコーナーがある事は、美術館の敷居を低くすることにつながっているようです。

初めて展覧会を見た方、小さな子ども連れの方、ご年配の方など多くの方々から「毎年楽しみにしています!」という声が聞かれました。出品者側もコラーージュなどの技法を体験することで新しい感覚を学べ、作品の下図に生かしてみたいなどと好評でした。



来場者の作品

第60回記念中部一水会展は四月二十一日～二十六日に開催されます。記念展ではありませんが、代表の小島義明先生が昨年七月にご逝去されたことを悼み、会としては対外的な企画は控えて、自分たちの勉強・研究の一年にしようという計画が進んでいます。イベントのひとつとして、委員、会員がパネリストとなり、構図や色、モチーフなどテーマを決めて発表するという「絵画シンポジウム」を予定しています。出品者とのディスカッションなどもあり、有意義なものになるよう今から楽しみにしています。

『**春の中部一水会展に行けば何か楽しいドキドキが待っている!**』という事が定着しつつあります。常に探究者であった先生の先生方に恥ずかしくないよう、急がず、焦らず、次の一歩を踏み出していこうと、今年も燃えています!!

(相馬記)

# 人を引きつけ魅了する作品を 研水会展

## 一水会展を目指して、 研水会展で自力を養う

研水会展は、関西在住の一水会所属作家と研水会の趣旨に賛同する美術家による公募展覧会で、毎年五月に大阪市立美術館にて開催している。

本年、第66回を迎える研水会展は、大阪、京都、滋賀、奈良、兵庫、和歌山を中心に、所属作家が二〇〇名を超え、一般公募と合わせて毎回二五〇点以上の大作を展示している。毎年三月下旬に関西の一水会委員が中心

となりレベル向上と、秋の一水会展へ向けての研究研鑽も合わせて、作品指導を行っている。

昨年の一水会展において、研水会関係の出展者は一五四名で、全国の約二十五%を占めている。しかし、より質の高い作品が問われる一水会展への挑

戦は、研水会一般出品者にはまだまだ高いハードルであり、まずは研水会展での入選受賞により自力を養い、一水会展での一層の活躍を目指していくという流れが、関西に於いて定着している。昨年の一水会展では、研

水会関係者から会員佳作賞、会員努力賞(三名)、損保ジャパン日本興亜美術財団賞、奨励賞(三名)、一般佳作賞(二名)の受賞者を輩出し、研水会展での研鑽が成果を生みつつある。

関西の一水会ファンは、まずは五月の研水会展で、これからは一水会展を目指していく発展途上の作家の作品を鑑賞し、十一月の一水会大阪展では、よりレベルの高い全国の一水会作家の作品の中に、研水会関係の作家の新作を鑑賞する。絵を描く観覧者も多く、まずは研水会展で

力試しをと考える方が、展覧会鑑賞を通じて応募されることも多い。

研水会代表の辰巳文一先生は「人を引き付け魅了する作品を目指して、制作に打ちこみ没頭することで、他の人には味わえない喜びや楽しさを得られる人生を過ごそう」と、一水会・研水会展を通じての出品者の姿勢を語られ、研水会委員の武藤初雄先生は「全体のレベルアップの為に、関西に特に多い水彩作家の一層の自覚が必要」と、研水会の課題について指摘される。

## 研水会の歩み

1948年(S23)

一水会関西支部設立、心齋橋大丸にて第1回一水会関西支部展開催(中畑艸人先生、松田忠一先生を中心に一水会創立委員の先生方及び関西以西の出品者にも賛助出品戴く)これが現在の「研水会展」の前身となる

1950年(S25)

一水会関西支部が研水会に改称、大阪市立美術館にて第1回研水会展開催、以降毎年開催、33回展から毎年5月初めに開催

※第1~29回展までは、小・中・大各一人2点出品もあったが、30回展以降は100号までの新作一人1点出品となる

2013年(H25)

「関西における一水会・研水会のあゆみ」刊行

2014年(H26)

第65回記念研水会展、展示数261点(F20号~F100号新作各1点)

2015年(H27)

4月現在:委員40名、準委員31名、会員130名、一般213名

- 審査:研水会委員により入落及び受賞審査
  - 会則:一水会入選3回、一水会入選1回及び研水会一般賞2回、研水会一般賞3回、研水会入選10回の何れかをもって会員推挙等(H22改正)
  - 代表:辰巳文一 ●事務局:茶本良隆
  - 研水会HP:<http://www.kensuikai.org>
  - 会場:大阪市立美術館
- H24年より毎年、「研水会新鋭展」を年末頃に開催

## 第66回 研水会展 平成27年5月5日(火)~10日(日)



▲毎年3月下旬に行う研水会作品研究会、近年は160名強の参加者があります。

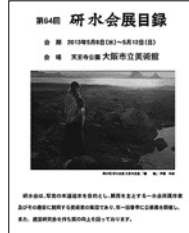
一般出品者を含めると、研水会関係者は現在四〇〇名を超え、大所帯ではあるが、元気な新人作家の益々の出現が待たれる。研水会では近年、ホームページを充実させ、ポスターやチラシに前年度の委員作品や受賞作品を掲載するなど、積極的に広報活動を行っており、「写実の正道追求」の姿勢は、多くの絵画愛好家に共感されている。さらに、平成二十四年より研水会新鋭展選抜作家を選出し、毎年年末に大阪市内ギャラリーで開催するなど新鋭作家の育成にも力を入れている。





出品者減少が危惧される公募  
団体展の現況にあつて、研水会  
展は現在のところ活況を維持し  
ている。しかし、元気で力のあ  
る団塊世代に支えられているの  
もまた現実であり、これからの  
一水会・研水会を支え発展させ  
て行くべく、若い実力作家の益々  
の発掘が急務でもある。  
ともあれ、毎年六日間の会期  
に五〇〇人以上の来場で賑わ  
う研水会展は、関  
西一水会の原動力  
の一つであること  
は間違いない。

(弓手記)



▲目録には、会員の部  
最高賞の作品写真を掲  
載します。

◀毎回大賑わいのギャ  
ラリートーク。

▶作品写真を掲載した  
ポスターや機関紙一水  
会を会場入り口に掲示  
しています。



## これから開かれる各地の展覧会(5月～8月) ■色は第1回展、記念展

展覧会の名称	開催場所	開催時期	参加者数	作品サイズ	事務局
第53回 茨城一水会展	水戸市県民文化センター	6/22～28	22	100号以内 1人2点	飯塚 和秀 ☎029-226-0883
第10回 記念栃木一水会絵画展	栃木県総合文化センター	6/19～25	17	30号以上 1人3点以内	山田 和夫 ☎028-636-3760
第17回 埼玉一水会の人々展	川口総合文化センター (リリア)	5/24～30	51	50号程度と 30号程度 1人2点	新井 隆 ☎049-244-5655
第1回 千葉一水会展	船橋市民ギャラリー (船橋スクエア21・3階)	4/27～5/3	24	50～100号	真木 克明 ☎043-487-9772
第37回 神奈川一水会作家展	神奈川県民ホール ギャラリー	6/2～7	約50	50号程度	本多 和矩 ☎045-963-5112
第6回 長野一水会展	松本市美術館	8/4～9	55	50～100号	野田 真由美 ☎0261-62-2793
第2回 石川一水会精鋭展	グリーンアーツギャラリー	5/29～6/3	22	20号	高崎 高嗣 ☎0767-45-1839
第66回 研水会展 (大阪・奈良・京都・兵庫・滋賀・和歌山)	大阪市立美術館	5/5～10	約250	20～100号	茶本 良隆 ☎06-6678-6500
第58回 一水会兵庫県出品者協会展	兵庫県民アートギャラリー	6/2～7	約40	100号以内	児島 真澄 ☎078-631-1295

# あのころから

吉崎道治先生訪問インタビュー

聞き手／新井・加曾利・西

—早くから絵は描かれていたのですか？

十八から。美術の先生にお前は絵の点だけいから絵描きにでもなつたらと言われたのが発端。そしたら親父が絵の具箱やるからって。いくら好きだったけど学校に出す絵は全部親父が描く。小学校でも親父が描いた。自分では高校三年の時美術の先生に、「一枚ぐらい出せよって言われて、それで描いて出したわけ。—志があたりだったのでは？」

す、アトリエ建つたのも高三。父の仕事の関係で、当時上野の美術学校の校長先生と琢二先生が仲良かったので紹介されたんですよ。先生のところ伺つたら、「あなた死ぬ気でやりますか」って言われた。三日ぐらい余裕あって、死ぬ気でやりますって言ってアトリエも建てた。琢二先生美大賛成しないんですよ、東大の出ですからね。いい音楽を聴いて、いい本を読んでいい絵を沢山観れば良いんだって。教員の免許だけ取れと言われて、武威美行つた。ところが僕は週に一遍しか学校へ行っていない



んです。絵の提出日だけ行くの。パレット褒められたな。絵具混ぜてたら独立の先生が綺麗だねって褒めてくれた。教授陣は基礎が横地康国、

講評は森芳雄、鈴木信太郎、そして麻生三郎がデッサンみてくれた。彫刻が清水多嘉示。その先生だけが日展系だった。高校出て翌年ぐらいから僕は一水会出してる。出したら右井柏亭先生が僕の絵を観てくれた。その作品、人物なんですけどね、琢二先生は帯の所にチョンと点を打ってくれた。初めて描いた油絵にもこれくらいの点が一つ。あとは色の混ぜ方も何にも習ったこと無い。ただ先生のところでお留守番してて、絵をひっくり返しそーっと観て。あと一緒に旅行しながら先生の絵を横に観て。先生と絵が似てるって言われたけど、僕は北海道生まれで先生は南の国の生まれ、「絵が似ても色が違う、君の色は冷たいね」って言うわけ。だから色のコンプレックス持った人なんです。そのかわりデッサンだけは他人に負けまいと、それだけは考えてます。

—北海道にはお幾つまで？

小学校三年迄です。軍人になるつもりだった。中学校の時に終戦で、

次は坊さんになるつもりだった。戦争に負けたからみんなを弔わなきゃいけない。次に絵描きになれって言われてしょうがなくて絵描きになった。僕は努力でこまど来た。他人が十枚描くのなら二十枚三十枚と描く、年間八十枚以上描かなきゃプロじゃないって言われて、十号ぐらいでも八十枚以上描いた。一〇〇号を八枚、ひと夏で描いた。先生が首傾げたら描き直し。余呉湖の雪の絵を見せた時に、「ああ君の絵が出来たね」って言われてそれから雪です。初入選は人物。

餓頭を持って行ったり、羊羹を持って行ったりして。現場で描くのが一番！みんな写真使うでしょ。いっかは使わなきゃと思つてますけど、写真の色には信頼性がない。人間はいろんな色を感じるけど写真には写った色しかない。それをそのとおりみんな伸ばす訳よ。だから一水会の緑の絵どの人も良くない。実際に現場で感激したものを描いて撮つて、伸ばすなら良い。一水会の人は何となく二十号描いて来たならそれを一〇〇号にするわけだよ。二回目描いたら飽きるに決まってるじゃん。その通りに伸ばすわけ。だから駄目なんだ。技術は後から付いてくる。現場行つてモチーフの感激したもの、そいつを巧く出していかないと駄目だと思えますよ。一番大事なのは現場でスケッチをしてきたフレッシュなもの、その感動を自然の形を借りて自分のメッセージを出していく。〈塗り終わった〉と〈完成〉は違うんです。スケッチと制作の違いっていうのは大事だと思つて。推敲して要らないもの省いて行つて。—だから僕の絵は抽象画なんです。

—それは並びが綺麗なのですか？

綺麗です。斜めから見ても真っ正面から見ても揃うんです。今、機械植えだから正面だけは揃うが斜めから見るとグジャグジャ。田圃の次が線路か。雪の中で一〇〇号を持って行つて。大船あたりで描くとたくさん線路があったから真ん中でよく描きました。保線区の人には必ず、お

《煙草(キャスター)の箱を例として》

この「キャスター」が面白いのか、この立方体が面白いのか、影の部分と明るい部分との色合いが面白いのか、点々が面白いのか人によって違うでしょ。この点々が面白かったら

さあ、抽象画だろうか？だから必ず  
写実で描けっていうほうが間違いだ  
と思う。林檎描きたかったら真っ赤  
にキャンバス塗って「赤い林檎」つて  
いう題だったらもしかすると取るか  
もしれない。

—そういう制作をされたことがおあ  
りですか？

学生時代にあります。その頃、林  
武も山口薫も武蔵美の先生だった。  
それで岡田謙三の絵も好きだった。  
だから必ずしも写実で描くという  
のは僕は…写実っていうのがどうい  
うものなのかは知らないけど。抽  
象でどうしても描きたい時っていう  
のあるだろう？ここにロスコの絵あ  
ります、向こうにマチス、モンドリ  
アンなら画集も持ってるし。こうい  
う人達の絵を観たときに、あっこれ  
素敵だなんて思うんだね。だから必  
ずしも写実、写生じゃなくてもいい  
と思う。ロスコの絵観ると何か温か  
さがある、詩があるよなあ。ただ、  
めったくに塗ってしまつたイラスト  
トみたいな抽象画だったら面白いと  
は思わない。

—違いは一目瞭然ですか？

—違います、僕は。だから一水会  
に写実以外の抽象でも良いものなら  
いいけれども、描けなくて描いた抽  
象は困る。子供の絵面白い、デュフ  
イの絵もミロも面白い、だけど子供  
の絵とは違いますよ。自由に描いて

いるけど全然違うんですよ。子供の  
絵は取っちゃだめ。そこに芸術性の  
どうのつてないんだ。作品っていう  
のは他人に見せるっていうことも大  
事だと思う。それは巧く言えないけ  
ど。

—現場で仕上げられるということど  
うですか？

六十代までは全部現場。現場でサ  
イン入れて終わり。  
—どの位通われるのですか？  
泊まりがけ。通う場合は一週間通  
うとか。葡萄畑描いてた頃は甲府ま  
で一〇〇号持って通って描いた。  
現場の方が鳥の声も人の話声も聴こ  
える。雰囲気を感じる。外にい  
ると気持ち良いじゃない。ダーツと  
絵の具塗って、後ろで煙草吸ってま  
た描いていく。僕はそれが一番幸せ  
だと思つてたから。現場で描いてる  
方が嘘が本当になるんです。例えば  
現場で雲が出て来て「パアツと描くよ  
ね、いつまでも雲なんか無い。そ  
の雲をいい時にうまくまとめて。  
家で雲見ないで作つたら本物になら  
ない。向こう観て、自分に合つてい  
るものを引っぱり出して、この色が  
見えたあの色が見えたっていうのを  
探しながら楽しんで描いてる。アト  
リエでは眺めるだけ。スケッチは現  
場で描いてサイン入れたら手は入れ  
ない。手入れちゃ絵の面白いものが  
無くなっちゃう。少しぐらい構成が

悪くても、現場  
で描いた気迫み  
たいなものは大  
事だよ。現場で  
四時間、長くて  
六時間位。余つ  
た時間で次の場  
所探しておく。  
積み重ねがいつ  
ばいある、十号  
くらいの写生が  
沢山あるからも  
う一度行こうつ  
ていうことがた  
くさんあります  
ね。

—富士山、浅  
間、妙義もあり  
ますね。  
妙義は長いね  
え。描くのに一  
週間ぐらい居る  
わけよ。安宿  
無いですかって人が来たとき訊いた  
の。ああ俺んとこ泊まっても良いよ  
つて。それが二十歳の時。そしたら  
二階で静かにしてる。自殺している  
んじゃないかと思つてそーっと上が  
つてきたら、自分の描いた絵をじー  
っと観てたんだつて。その後お袋が  
巻紙で礼状出してくれた。それでい  
いとこの坊ちゃんだと間違えたらし  
い。それ以来親しくしてずうつと通



つています、今でも。

—小泉元生先生とは若い頃から？

— 塚二先生の所へ行つた一年先輩で  
す。一緒によく旅行行きましたよ。  
吉野谷幸重さんとも行つたことあり  
ます。納富進さん、奥田郁太郎さ  
ん、三浦俊輔さんとも描いたことあ  
る、塚二先生の関係で。僕は塚二先  
生の車の運転してたからいろんな人  
と描いています。奥田さん、巧い人だ

よあの人。伊豆へ二回くらい一緒  
してるかな？ 仙人だったな。ああ  
いう人が今一水会にいなかったよ  
ねえ、本当に。いつでも長靴履いて  
たよ。僕も長靴を非常に履いた。雨  
では感謝されたことある。妙義山が  
日照りで雨が降らないときに僕が行  
つたら雨が降つた。天気なのに長靴  
履いて行く。ザーザー降つた。雨の  
絵好きだし結構描いてます。

—どの様な装備で？

大きなパラソルさして絵だけは濡  
れないようにして。雪国では雪穴を  
掘つて、絵の具箱なんか全部そこへ  
入れて半日ばかりで車を寄せること  
るを作つたり。吹雪いてくると、絵  
の下につららが出る。それをバラ  
バラと折つたりね。礼文島なんか  
ツルツルになつちゃうんだ画面が凍  
つて。しょうがないから枯れてる藁  
草炊いて上で炙つて、融かして描い  
たりします。宿から描こうかと思  
うのは七十五、六になつてからだよ。  
雪は雪なりに寒いなあつて体で感じ  
ながら、ぶるぶるして描く。ぬくぬ  
くと描くから駄目なのアトリエの中  
で。それが良くない。  
—北歐へ行かれたのもやはり雪景で  
すか？  
— 夏の間はパリから南で、北歐入つ  
たのは九月から三月まで。デンマー  
ク、スエーデン、ノルウェー。良か  
つた村へ旅行しては生活した。うん

と吹雪いているときは、向こうに何かがあるんだんべ、すげえ美人が歩いているかも知れないと思うとさあ、絵描いていて楽しい。子供の頃の思い出があるんじゃないかね。晴れた絵を描くようになったのは、琢二先生が晴れた日の強いものを描けって盛んに言われて。それで電線を描いたり線路を描いたりしたけど、先生が亡くなったら何にも無い処描いたよ。琢二先生に似てるって言われたんで随分抵抗してね。先生が柔らかい筆使ったら僕は硬い筆、先生が硬い筆使ったら僕は指で描いた。一水会に指だけで描いた絵出したことあるよ。

—南の方を取材されたことは？

イタリアぐらいだな。沖縄へ取材には行ってます。ただ暑いやね。暖かい所は暖かいとき、寒い所は寒いときに、北海道は雪の降っているときに描きやすい。その場の中、風景の中に浸り込んで描くんだから馬鹿なんじゃないか？勉強が得意ないから絵描きになれて、やっぱり本当かもしれない。

—「訂正しなければならぬような下描きをするな」と言われたとのことですが。

琢二先生の所で石膏デッサン習っていたことがあるんです。食パン持って消しながら描いてると、「吉崎君、消すぐらいなら描くなよ」ます

それが最初だった。それから油絵描き出して、「訂正するくらいなら最初から描くな、色をしつかりパレットでこねて一発で決めるべきだ」って言われた。描くのが速いのは、しつかり練って向こう側で自分の思った色を付けて後で訂正しないから。まあ塗つとこの「まあ」は駄目だ。塗るときにはやつぱり一発で切り込むように塗らなきゃ駄目。一水会の人、ピリジャン手にしてまあ緑を塗つところ、その次に少し変化が付いて暗いか明るいかなんて言ってるから古いんです。この色は何色、ここは何色なんですかって僕は言いたい。そういう風に色を覗て。琢二先生は「あの頭悪いから見ててごらん。いつまでたつても仕上がらないから」ってよく言ってた。座ったときに仕上がりが頭の中に浮かんで、描こうと思うときにはしつかり構成したものができている。僕も大体そう。デッサンしゅしゅつとつて、あと煙草吸ってます。で、仕上がりが頭の中にあつてそいつをバツて描いてしまふ。途中で気が変わっちゃ駄目だ。煙草とコーヒ、酒だけは飲めない絵は巧くならない。自分の絵は見えないで、全然違う方向の風景で頭の中整理しながら一服吸うってというのは大事な。それでまたぱつと自分の絵を眺めてみる。家の中で描く人も置かなきゃ。下手

な奴つて自分のキャンバスだけ見てる、向こう見ないで。安井先生は向こうを六分見ろ、四分描けつて。それは大事なこと、大きな声で言いたいね。穴開くくらい覗て、頭の中で練つて計算して、それでポツと単純に出す。大事じゃないかな。

—「写実の正道」を巡ってお話を。

写実って何さ！訊きたいのはみんなの意見。写実って何ですか？

—「写生」と「写実」とがあります。

写生と写実の違い。

—「写生」は自然に没入し、「写実」は自然と対峙している印象を受けます。日本人は写実よりは写生ではないかと。

写生です。それは狩猟民族と農耕民族の話をよくするけど、その差だと思えますよ。

—「写実の正道を行く」というのは、西洋画に学ぶということですか？

西洋画の写実と日本人の写実とはちよつと違うからねえ。創立会員の描いた写実っていうのは違うんじゃないかと思うけどねえ。向こうからもらうのも大事だと思ふけれども、自分の言わんとするメッセージを自然の形を借りてより強く表現するのが写実かな。それが林檎であつても人であつても良いわけだよ。自分のメッセージを、飽くまでもその自然の形をある程度残して行くのが写実かなあと思うんです。自然に対

するものを抜きにして非常に合理的な精神だけで、色の組み合わせや何かでやるのが抽象ですけど、中には抽象でも全然違う、あの岡田謙三の抽象なんか日本人の抽象ですよ。

僕は日本人ってそんなに合理的じゃないと思うんです。僕もそういうところが非常にあります。常に景色を覗てて、自分の心の中で描いているものとフィリングが合うと、その形を借りて表現して行こうとする。

向こうの形がいくらか残っているのが良いかなあ、一水会らしいかなあと思うんですよ。抽象と写実を分けること自体が無理かなと思います。

一水会で抽象画でも取りますっていうのは、本当に抽象画なのか、写実が出来なくて抽象になったのか、その辺の見極めは大事だよ。

—抽象というと「記号化」と思い勝ちですが、写生中でも、絵の具の質と色、平面の形に置き換えているわけですからそれは抽象だと。

そうそう、僕の絵は抽象画だと思ふ。木の葉つば一枚ずつ描いていなくてもいい。恋人描くのにはほくらで描くかっていうと、ほくらで好きになつた人じゃなかったらほくらで描くだろう、そして何か自分の理想みたいなもの描くだろう。そうすると抽象だ。写生じゃないね。何でも写真みたいに描くっていうのは善し悪し。あれは写実とは言わないんじゃないか。説明じゃないんだよ。髪の毛一本ずつ描かなくてもいいんだよ。その辺言い出すと面倒臭いんだけど、そう思います。海を見ると向こうに国があつて、行つたら儲かるって考えるのが西洋人。日本人は海を見るとお母さんって叫ぶんです。広い自然見ても何かそういう言葉が出てくるんだ。それと日本は四季がある。常に天候が変わつて色が変わってくる。雨が降つたら米の穂が濡れるんじゃないかってすぐ心配する。それは気候の変化、四季があるから。日本人は四季を大切にしないといけないって僕は思う。日本画と洋画っていうのは溶剤の違いだけだと思ふんだけど、考え方としては日本画の方が腹芸ですよ。よっしゃ、任





せとけつていうような。そして洋画の方が非常に説明が多いですよ、合理的だけども。だからその辺の違いがあるんじゃないですかねえ。

「写実の本道」とは決まった事柄ではなく我々が考えて行かねばならないことでしょうか？

と、思うんだ。良い絵なら取る、良い絵だったら手挙げるんだよねえ。

「考え過ぎるとかえって見失いますか？」

そして自由に出来ないでしょ、これは一水会で受け入れてくれないんじゃないかって。やってみりゃいいんだよ。もつと単純化してさあ。ただ、色を塗って遊んでしまったものとは別。

「日本の四季や風土と関わるものですね。」

《休憩後》

裕伊之助ってヴァールのしかりした人だよな。

「本山唯雄先生、寺井力三郎先生も仰っていました。」

小川游さんも裕さんが教授でいたから入ったんだよね。マチスの弟子だよな、裕さんって。ああいうもの見方っていうのが大事じゃないかな。日本人、一水会の人っていうのは遠くのを霧にかけるようばかしちゃう。弱く描くかグレー調に濁色にしていく。で、手前のものを派手な色で持っていけば遠近感が出ると思ってる。裕さんは遠くにも原色を置くわけだよな。それは大事なことだと思ってる。一センチ四方の赤より一メートル四方の赤の方がより赤く見えるよな。そういうようなこと大事なんだ。風景の中でも、遠い

日本人だからね。ヨーロッパから帰ってきた時に江ノ島を見たら、西日が当たってたんです、凄く。いやあ日本って綺麗だなあって思った。ヨーロッパの風景に慣れて、北海道生まれだから北歐が好き。それで良いなあって思っていたけれど、日本にもいっぱい良い所があるなあって。見直さなきゃ。

からといってホワイト入れてばかり行く考え方嫌いな。ところが一水会の人非常にそれが多い。だから絵が古い、その辺直してくれないかな。それには向こうをしつかり観て色を置いてみるべきだよな。綺麗なものも美しいものを間違えちゃいけないって大事なことだと思う。一水会の人綺麗なものを描きすぎ。美しいものを描くべき。だからあの足跡『雪の朝』(76回展出品作)も美しいと思ったから描いた。綺麗なら美人の顔を描いた方が器用に描けると思うよ。一水会の人たちすぐ説明したがる。いちいちこの花は何の花ですって説明する？色合いが欲しかったのに、花の持っている詩情みたいなものを組み合わせてやるときには、甘いって必ず言われますよ、構成的じゃないって。構成的じゃなくても良いんだ、もつと思いつて仕事やってくれば良いのになあ。感激してね、今日はやったぞって言うって次の日はまた違う絵描いてやるぞって。それで良いんじゃないかな。公募展の弊害みたいなものもあるかもしれない、顔色見て絵描いてるんだ。一水会は写生じゃなきゃいけないと思ってる。安易に写真撮って写真伸ばしてくる。もうちよつと頭使えよ、写真だつて縦横にひっぱたりき、面白くなるじゃない。フィルター被せて一つのト

ーンだけで撮ってみたい。それ試してそこから自分の思ってる詩情みたいなものが出て来たらそれを描きや良いんだよ。技術なんていうのは誰でもできる。あとは人間の考え方だよ。色塗るのが好きだから絵描きになつてるけど、哲学の人はものを考え、音が好きなら音の組み合わせで音楽家にならばいい、芯は同じだと思う。山登るときにあちこちあるけど、どこから登るかだけのことなんです。絵は癒しを与えるのが目標だと思えます。希望、祈りみたいなものが絵だった。宗教画にしても何か癒しを与えるものだと思うんです。癒しが無い、詩情がないような絵は一水会では取らなくなつていい。

「今後、一水会はどうあって欲しいとお思いですか？」

もつと色を大切にしたい。色の使い方っていうのをもつと研究して良いなと思うし、大事なことと思うんです。一水会を覗に行つて良かったなと思わせる。巧い人が揃つていたなっていうのは失敗だと思う。若い人がそういうことを考えれば良くなるんじゃないかな。

「一水会で『君の緑には哲学がないと言われたことがある』と仰ってましたが。」

あれはねえ、高田先生。「川村親光君の絵観てごらん、哲学がある」つてこう言ったの。解らなかつたな

あ。写生画だったからね、多分表面を見て葡萄畑のあの色を見て描いてるつて。器用で巧いって言われるけど、そこに哲学が無いって言われたの多分そういう意味じゃないかなと思えました。今、ただ自分に忠実に描いている。ここところが大事なんだけど、自然を見た通り見た通りに描くんじゃなく、観て、感じた通りに描く。この「感じた通り」がひとつ増えたんじゃないかな。自分の中へ入れて、そこからもう一つ推敲したものを出して行く、大事だと思ふ。それが抽象画になつて来るんじゃないかな。僕はそう思います。一水会も良い意味での写実的な抽象画が出て来れば良い。土つて言う土色を、空つて言う空色を取つてるんだよ。毎日空の色変わるのになあ。「今日のこの空、凄く美しいな。随分赤が入ってる」そういうようなものを感じ取つて行かないと駄目だと思ふんだ。色を勉強して欲しいなと思ふですね。今年も、また次の年も全然違うの出した、それでも良いと思ふます、その時に素直なら。そういう絵、勇気が出てきます。

仲田好江先生、裕先生はずいぶん応援してくれた。それから深沢紅子先生、「一水会は男の会だから私が何言つても駄目なのよ」つて手を挙げて怒つてる。そういう先生だつた。段々一水会もサラリーマンみた

いになつてきた。浮田克躬君とか、小松崎邦雄君とか、ああいう人居なくなつてきた。古い先生は古い先生なりにもつと素晴らしかった。中村善策さんなんて凄かった。「君の絵は画面のね、あの左上のね、真ん中へんのね、あその緑がね、描けてない」と。展覧会に何人も出してるのにちゃんと覚えてる。善策さんってそういう人だったよな。

—先生のこれからについてお聞かせ下さい。  
できればいつかは日本人の油絵を描きたいという大それた希望を持っています。

—それは写生を重ねて蓄えて来られた何かですか？

それを省いて省いて、俳画みたいなもの。散文詩はヨーロッパ、和歌は日本のものですけど俳句はもつと削いでいって一部分だけ。そういうようなもの描きたいなと、それが日本人の油絵じゃないかなあつていう気持ちがあります。ルーブルやなんか行って見て来たら、説明する合理的な絵を描いている伝統がある。かなわないですよ。日本人の持っているものをもつと生かして行かないや。器用な絵は他の会に任せなさい。そしてもつと自然を大事にしたほうが良い。受験の時デッサンは金子徳衛。蕨(埼玉県)まで行ってたんです、研究所まで。金子徳衛の絵好



二〇一四年六月二四日取材  
以上「あのころこれから」

きだった。日本人の油絵だよなあ、大事だよなあ。ヨーロッパ行つたもう一つの理由はムンクが好きだったから。ムンクの持つてる诗情みたいなものが凄く好きだった、説明的じゃない。アングル、ダヴィッドなんか、ものを説明して良く描いてるけど、ムンクはそうじゃなかった。で、一番好きだったのはマルケ。あの人はヴァルルもしつかりしてるし、ホワイトの使い方が巧い、あれだけ大胆に。でも、人物はあんまり巧くない。

—あとはフリートークで：  
面白い話が出てきたら何でも。僕は隠すところが何も無い。

—ありがとうございます。

# 自由投稿欄

# 水路

揮毫 浅見嘉正



## この言葉にふれて

新潟県・村山陽

八十四年の人生を経過しつつある今の私が触れ合った人々の中で、鈍感な私にもわすれられない「言葉」があります。

わが たましいに

あゝ ふてぶてしきよ

汝が 絵を 北国の

冬の 荒海に 晒せ

これは、詩人I・H氏(武者小路実篤さんの書画を行商中)が、北陸海岸村を人々と暮らしつつ、清貧の中で生まれた詩で私に迫ってきた。私の描いた絵は木端微塵に吹き飛んで、荒れ狂う雪雲に舞い散った光景が胸に渦まいたのです。冬空、風雪に耐えられる画質、品

格でありたいと決意しました。

そして教員最終校(工業高)勤務の時、朝食を摂りながらTVで、工事現場で答える三十歳男性が「今日の素人は明日の玄人、今日の玄人は明日の素人」と語っているのを視て、この言葉を生徒達にも。

勿論私の胸底にしつかり伝え、今日も一步を踏み出したのです。

## 山形県・沖津達也

私は静物画を描いております。現在は光と影をしつかりと捉え、より写実的な作品を目指して制作をしています。どのような構図や色彩で描くかを決定するまで、いつも悩みながらの制作です。ある方には「もつと古典を勉強し

## 好きな街・冬の金沢行き

岐阜県・青木年広

二度目の会員佳作賞を頂き、長かった中での喜びでした。作品が巡回することとなり、十二月中に冬の金沢展を訪ねることが叶いました。友人達と車で北上し、大雪の高速を走り、氷見港で魚を食べて夕食は金沢のホテル近くの小料理店で満腹に。おいしい店の多い金沢市内のある店で、何と岐阜の出身で元金沢美大日本画教授の土屋禮一先生とバッタリと！お互いに驚き、何という偶然の出会いが。

## 吉崎道治のすゝめと道草 ②

### 白馬の仙人

食糧事情の悪かった頃、もらった南瓜をリヤカーで引く貧しい男は、村民の子らによくからかわれていたと云う。或る時見合いをさせられ都会の女性が伺ったら日暮迄あまり物申さなかったと。貧しい暮しをみた女性は履いて来た長靴を置いて、そつとすりへった草履を履き雪の中を帰ったと。暇な時は高等数学を解いていたと云うその方は、後にえらい画家さんと認められたが、無類の酒好きで、アトリエには酒の瓶がゴロゴロ転がっていた。伊豆でお会いした時も長靴姿で気取らぬ先生だった。その方は安井門下の秀才奥田郁太郎先生で北安曇郡の池田町立美術館（北アルプス展望美術館）で作品に接することが出来る。本当に絵の好きな方だった。

### 北海道 紋別の入

紋別で流水を描いていた場所がいけなかった。街を見下ろす丘の上、絶壁のそば、雪の中、ピーポピーポと警察の車、パトカーから下りた警官は愛車スバルの陰で丸

くなつて描いている私を見つけて言った。「なんだ絵を描いておられるのですか。街の住民から崖の上に車が朝から止まっているので自殺ではと通報がありました。」紋別の人ありがとう。御心配おかけしました。

### 千葉県 犬吠埼

都心からも近い犬吠埼は写生地としては手軽な場所です。安井曾太郎先生も描かれた所。まだ宿賃四百円の頃、岬の付根にあつた老夫夫妻の宿だった。到着早々丁寧に泊分だけ先にと云われた。その夜は値段のシールがついた釜やヘラが…。いざ寝る時に浴衣の紐が無い私は襖越しに声をかけた。「一寸お待ち下さい」との声。襖のすきまからのぞくと婆様はするすると着物の赤いシゴキを抜いてくれた。暖かかったけれど、これが本当のヒモツキの話。岬の南側は秋から冬が良く、北側はやや女性的風景、外川寄りの長崎鼻も瓦屋根が少なくなつたけどまだいけます。風の日は、眼下の岩と、くだける白波でしょう。

その後、一水会前夜祭の二次会に参加させて頂き、本部からの辰巳、さきや両先生と同席した。皆さんの歌の盛り上がりにも私もうたの披露を。外は雷と強風の中、三次会にも参加。

翌日は話題の二十一世紀美術館の一水会展を訪ねました。入口の一水会史、山本勇代表から始まる広い会場に私の絵も並び、皆さんの歓待を受けました。旅の帰路は吹雪で真っ白の高速を無事に岐阜に到着した。

### 深沢先生のこと

岩手県・重石晃子

郷里盛岡市に永住して十五年にわたつた。恩師深沢先生ご夫妻の美術館ができて、そのお手伝いがきつかけであつた。

お二人とも自分達の美術館を夢見ながら、美術館完成（平成八年）前の平成五年三月に紅子先生、その一年前の同じ日には省三先生が亡くなられている。

一水会の若い方々はご存知ないかもしれませんが、深沢紅子先生は一水会の常任委員。深沢省三先生は、岩手大学特設美術科の科長教授で、デッサンの達人として有名な方であつた。岩手の美術教育の基をつくられたのは、深沢先生ご夫妻の力だと私は思っている。

「深沢紅子野の花美術館」で一水会選抜展が始められたのは平成十六年。地震の時以外は毎年開かれているが、その都度委員の先生方がいらして下さり、それぞれにギヤリートークをして下さる。具象を標榜するこの展覧会で、具象の意味をどのように解説なさるか、私はとても楽しみにしている。そして岩手からの出品者が増えることを願っている。

### …出会い…

静岡県・鈴木喜博

「画材屋さん」に作品を取りに行くように伝えてあるから…とKさんからのやや一方的な連絡。一水会展の初出品はこんなやり取りからでした。

一水会展に初出品したのは今から八年前。それまでは、地元公民館の絵画展に出品するくらいで、なんとなく好きで続けてきました。そんな私の作品に目をとめてくれたKさんの熱心なお誘いが一水会展に出品するきっかけとなりました。優柔不断の私は言われるままに出品したのでした。

でも、このやり取りから、当時体調が悪くて消極的になりがちだった気持ちに大きな転機が訪れました。その後はとても順調な絵画

活動をさせていただき、健康も回復、そして現在、情熱を傾けて絵に向かうことができることに感謝の気持ちで一杯です。

一人では容易に自分の進む道を変えられない。人との出会いが本当に貴重なものと実感しています。これからも、一水会をはじめとする絵を描く仲間との出会いが、さらなる飛躍の機会となることを信じて…!

### 大阪府・伊藤尚尋

海に山に自然豊かな地元、和歌山。よくスケッチに行く場所をご

紹介させて頂きます。まずは新宮市の桑の木滝に向かう細い道の脇を流れる小川。滝も勿論いいのですが、この小川に転がる苔まみれの岩、そして森の中の静寂。スケッチに集中していると、静かだと思つた森から虫や草や風の音が。

次に太地町の夏山という静かな入り江。赤や白や黄色、カラフルな岩が違和感なく混在していて何とも素敵です。知る人ぞ知る場所です。観光地化されず四〜五十年変わつてないそうです。ここでよく奥さんに立って貰つて絵にしています。

もう一か所、古座川市の滝の拝。奇石群の中を透明度の高い水が流れます。まだまだご紹介したい場所は沢山あるのですが…

# 一水会事務局だより

## 芝園中利用状況



◆一水会人物デッサン講座を開講しました。

三月二十一、二十二日  
第一回目は埼玉県、東京都から計二十一名が参加。

モデルを取り囲んでセッティングすると、広い教室もほぼ一杯になり、張り詰めた、心地良い空気の中で制作に熱中し、充実の二日間であった。という間に過ぎました。

小川游先生、寺井力三郎



先生には、画学生時代の師

(安井曾太郎・林武・小磯良平)の話などもお聞かせ頂き、格調高く熱く、時にはユーモアを交えてご指導を賜りました。

継続を要望する人数のため、募集範囲を広げつつ次回を設定する予定です。

## ◆一水会スケッチツアー 企画終了のお知らせ

一水会展会期に合わせて開催して参りました「スケッチツアー」は昨年の第5回をもちまして終了する事になりました。ご協力頂き、有難うございました。

## 最近の動静

【逝去】森下喜文氏(委員)・栗本一郎氏(会員)・柳田伸郎氏(会員)・久米敏子氏(会友)・柴崎近子氏(会友)・島崎清海氏(会友)・富田裕夫氏(会友)

【退会】大森まさ代氏(会友)・沖津信也氏(会友)・小松精二氏(会友)・境田潤氏(会友)・船越俊雄氏(会友)・松本和子氏(会友)

## 第77回一水会展

九月十八日～十月三日  
於／東京都美術館

東京都美術館ロビー階第一、二、三展示室にて開催します。昨年の76回展では入選作品五〇四点と、委員、会員の二七三点を合わせ六七七点が展示されました。入場者は前年度15,356人に対し17,154人と大幅に増え、写実を標榜する一水会展への関心の高さを感じることができました。このあと「第77回一水会展」の運営委員、常任委員、委員、本年度受賞者作品は、三都市で開催される展覧会を巡回します。

## 【大阪展】

十一月十日～十五日  
於／大阪市立美術館

## 【名古屋展】

十二月八日～十三日  
於／愛知県美術館ギャラリー A～G

## 【金沢展】

十二月十六日～二十日  
於／金沢21世紀美術館

大阪、名古屋、金沢の他、各地域の一水会のメンバーによる展覧会が春季、秋季にかけ活発に開催されます。今年は新たに千葉県、広島県、北海道の一水会出品者の人々による地方展が立ち上がり、その活動が期待されます。

## 短 信

広島では、桜満開の下、従来の「路展」と合同で「第1回広島一水会展・第35回路展」を開催しました。出品者22名、出品作品、大小合わせて79点。四国から越智節昇先生ら3名の方に来ていただき、おかげさまで、1344名の来場者を迎え、盛会裡に閉幕することが出来ました。(木村 記)

**第1回 広島一水会展・路展 第35回**

- 会場 広島県立美術館 地下 第3,4展示室
- 後援 中国新聞社、広島市文化協会
- 会期 2015年 3月31日(火)～4月5日(日)
- 協賛 NPO法人ひろしまインターネット美術館

9:00～17:00 (入場無料)  
(ただし、金曜日は、20:00まで)

- |      |      |      |       |       |      |      |       |       |       |      |      |      |      |      |      |      |
|------|------|------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| 吉川順子 | 松本真弓 | 前川忠文 | 藤田のり子 | 藤本美由紀 | 橋谷邦夫 | 竹野雅生 | 佐々木義興 | 功野智恵子 | 久保田辰男 | 木村 毅 | 金井拓恵 | 内田八代 | 岩池和代 | 上田正紀 | 岩田正美 | 山田正美 |
|------|------|------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|
- 出品者 30名

# 告知 座談会

## ただ今企画進行中です!

広報部では座談会(討論会)をひらき、活発に語り合う幅広い年齢層のナマの声、想いを紙上で実況したいと考えております。

あなたが見つめる作画のテーマと技法、夢や迷い、本会との出会い、あなたにとって団体とは? 具象とは? 写実とは? 時にはゲストをお招きして会外の声に耳を傾けてみる・・・。

話題はそのときですが、生活と制作全般にわたって語り、問い、聴き入りながらそれぞれの途上を確かめ合い、希望や課題を共に(シェア)する場になればと願っています。乞うご期待!!

岩手の三陸海岸を訪れ、記録して残すというこの大切さを改めて感じました。それが言葉であったり、写真であったり、そして絵であったり…。記録してあることで多くの人と繋がり、それが現在と過去、そして未来の人にも何かが繋がる。そう思うと心の中に大きな世界が広がります。N・M

デッサン講習開講。洋画を構成する重要な要素の一つ、「調子」について学ぶ。「人体が描ければ他のものは何でも描ける」とは本山唯雄先生のお言葉。是非とも定期開催を。描こうとした絵と描き上がった絵との差異は何ですか? 制作の動機、方法の選択とその結果、模索の中で得た確信などお聞かせ下さい。紙上討論会計画中。A・T

## 編集後記

